

木更津飛行場周辺町づくり実施計画に対する抗議文

木更津飛行場周辺まちづくり実施計画（他3地区）素案に関する住民説明会なる説明会で、財政破綻を前提とした計画案に、命がけで反対の抗議をする。

命がけという言葉を使わなければならないほど、腐った木更津市政を全市民に明らかにするために戦いを宣言する。

説明会では、実施計画なる立派な資料が配られたが、何も知らない市民は絵に描いた餅の如く良い出来栄えに騙されてしまう。目的が潮見の市役所跡地に公設市場を移動することが第一目的であることは、多少の地方自治政治をかじった者には見え見えである。

現代社会において、すでに物流が変わって、業者と生産者が直接取引を行う時代になっていることは誰でも知っている。それなのに、公設市場を災害から守るためと言い訳をして、移転、新設するなど税金の無駄遣いで、税金を食い散らかしている税金虫どもの勝手な理論である。

取引額が減っている青果市場もしかりだが、木更津魚市場は魚の水揚げも無く、競りも行われていない、市場とは名目だけの食堂、売店が主事業である（株）木更津魚市場という民間企業である。地方自治法では行政は民間事業と競合する事業をしてはならないことになっている。

ましてや（株）木更津魚市場はかつて手形詐欺にあった金網星一氏が、暴力金融の取り立て騒ぎになったときに、現市長の父親、故、渡辺二夫県議に小浜の斎藤氏が手形小切手印鑑を持ち込んで、身動きできないようにして、そこに衆議院議員であった故、浜田幸一が乗り込んで経営権を握った民間企業である、当時、金網星一氏の窮状を救うべく、支援した親せきや地元企業もあつけにとられた事件である。さらに、渡辺二夫氏が社長になり、役員に浜田幸一も加わって、さらに稲川会の身内である故、仁平晃が役員となっている。稲川会の圧力により、渡辺二夫氏は社長をしりぞき、代わって仁平晃が社長になった企業である。国の法律では反社会的暴力団体に国も地方も関わってはならない法律がある。さらに、現市長の渡辺芳邦は、仁平晃の後任として社長に就任、市長になってからも2年間社長を兼務していた。公設市場の管理運営の立場で、そこに所在する木更津魚市場の社長が同じでは、法に触れる恐れがあり、社長を退任して荒井弘導（関東自動車工業）が市場の社長となり、荒井弘導は市場に隣接する不動産を隠し財産として取得、関東自動車工業が債務超過で倒産するときは、詐害行為で隠し財産の差し押さえを逃れた。

私はかつて仁平晃の追跡を行ったときに、仁平が暴力団事務所に立ち寄った

直後、十数名の暴力団に囲まれて、拉致寸前恐怖も味わっている。彼が広域暴力団と深いかわりがあることは身をもって体験している。そんな民間企業のために税をつぎ込むなどもってのほかである。

取引も少なくなった青果市場はかろうじて稼働をしているが、取引量は激減、4市の野菜農家も市場に出荷してかろうじて商っているが、その流通機能の負担を木更津市のみが投資を負担する必要があるか、全く無い。防災のために建て替えが必要なら、4市の広域市町村圏で、新たに適切な場所を確保して移転すべきで、木更津市1市の負担とすべきでない。4市の協力が得られなければ、遺体焼き場の仏の受け入れを制限するだけの気迫をもって対応すべきだ。

一連の流れからして、木更津市は意図的に財政破綻を導く政策を実施して、後日、財政改善のためと言いつくろって公設市場跡地をマンション業者に売却するための下仕事をしているとしか見えてこない。

かって、水越市長がわずか一カ月で駅前そごうビルを、いかがわしい不動産業者に違法な手続きで、捨て値で売り、納税者を裏切った事件と同じ匂いがする悪辣な企てで、悪い企ては一部の悪い職員の協力と市議会議員の背信的協力が無ければ成功しない。悪事に加担する市職員は、市長にしっぽを振って褒めてもらいたいポチで、木更津市議会議員は善悪の判断を付けられない議員報酬だけが目的の政治音痴な税金虫で、議員としての能力を疑う。

さて、木更津飛行場周辺まちづくり実施計画に戻すが、これだけの事業を、財政の現状も無視して実施した場合、建設費や管理維持費に莫大な費用が掛かるが、5年目以降の運営維持管理費負担は隠して資料を作成、あたかも1年目から計画を着手して、素晴らしい街が出現するような計画資料である。

パブリックコメントをお願いしますと言いつつ、役人の悪知恵は、ホームページにアクセスして、5日間で締め切り、駅前そごうビルを1カ月で売却して手放してしまった水越市長と、協力した役人の悪知恵とよく似ている。そして、駅前ビル売った価格の4倍以上の賃料を支払った、木更津市政の無能さを市民は知るべきである。

公設市場を新築移設する予定の、潮見の旧市役所跡地は、目的変更の検討委員会会議を7回も繰り返して、市役所職員による議事誘導で、地元市民有識者の反対を押し切って、たのまれ学者と、無能で木更津商工会議所会頭とは名ばかりの商店街組合長程度の知識しかない、役職好きな鈴木克己は、「将来にわたって木更津市役所庁舎は作らず、2か所に分散して借り続けるべきと」した市長の意向にそったバカげた無責任な答申をして、それを木更津市長は喜んで受け入れ、庁舎の分散を進め、市民はあっちこちに振り回され、「こっちはあり

ません、あっちです」あっちに行ったら「こっちではありません、向こうです」と振り回される事態になっていても、市長は居心地のよい天守閣から煙の出ない民の籠を眺めて、高額な市長報酬さえもらえればそれで良いと考えているのだろうか。たしかに辞めてしまえば時間経過で臭い匂いも消えてしまう。水越勇雄前市長がしたように、イタチの最後っ屁だ。

既に朝令暮改で迷走する市政運営は、駅前庁舎が民間の賃貸協力が得られなくなった結果、自前で新しく、建てるということになり、利用が進んで、十分に活躍できる駐車場施設を解体して、新しく庁舎を建てるという。ならば旧潮見庁舎跡地は、永遠に市役所庁舎を建てずに、坪当たり4000円から7000円で民間から借り続けるといった令和2年2月17日の第7回、庁舎整備検討委員会の答申を受け入れたのは何だったのか？自分の関係する（株）魚市場の利益のために、このころから悪知恵を働かせて、公設市場を移転する準備だったのだろうか？ましてや木更津市職員の業務組織体系も縦割り行政で、自分の仕事以外は口を出せない仕組みとなっており、事業評価も検証もしない、他市町村より50年以上遅れた行政システムとなっている。オーガニック条例などを作ってSDGsとうたいながら、自ら条例に違反して歴史的樹木の伐採や建物の解体、財政を無視した無謀な建設計画を、絵に描いた餅の如くきれいに取り繕い、市民を欺く密室の市政は、利巧か、馬鹿か、悪党か、幼稚なパフォーマンスなのか、真意が計り知れない。

主題の結論とするが、将来、政治勢力に影響されない、優れた木更津市長が誕生した時のために、その時まで旧庁舎跡地は今のまま手を付けずに残し、公設市場移転などという公私混同した、ましてや民間企業支援のための公金利用、さらに暴力団と関係があった企業に、国の法律で禁じられている公金のつぎ込みなどという愚かな行為を絶対にしてはならない。暴力団と（株）木更津魚市場の関係は、渡辺芳邦市長が一番よく知っていることで、どうしてもこの企てを実行しなければならない理由があるのなら、素直に納税者市民に打ち明けるべきである。時代遅れの「知らしむべからず、寄らしむべし」の統治思考は現代には通用しない。

木更津市長 渡辺芳邦様

2025年 2月 4日
地方自治研究会代表
木更津市中央3-4-6
河邊伊知郎（自署）